



# 美浦村子ども議会

～美浦村の将来を思い、自分たちの考えを提案しました～



美浦村議会は、次代を担う中学校の生徒に美浦村の将来を考え、質問することでまちづくりに関心を深めてもらうとともに、中学生の要望や意見を聞いて、今後のまちづくりの参考にしたいと考え、子ども議会を7月23日に村議会場で開催しました。

美浦中の生徒20人が議長1人、議員18人、議会事務局長1人に分かれ、村議会と同様に議会を進め、代表の8人が村長はじめ村執行部に質問や提言などを述べました。



本年度はタブレット端末の操作を、新家子ども議会副議長にお願いしました。

質問を終えた議員からは、「緊張したが、聞きたいことを聞けた」という感想が多く、「美浦村のことを知るきっかけになった。」という嬉しい感想から、「1年生、2年生の時は傍聴だったが3年生で質問者になった。」といった子ども議会を3年間皆勤賞の議員さんもありました。

また、「大人と同じ議会に参加し、中学生として大人に一步踏み出した気持ちです。」など、多くの感想をいただきました。

それでは、この日の質問や意見の一部を次頁から紹介します。

村内の通学路について



ほそみ なの  
 八月朔日 菜緒  
 議員

**質問** こちらの写真をごらんください。

ここはカスミ前の交差点です。美浦中の生徒も登下校で利用する場所ですが、使いづらいつと感じる生徒が多く、郵便局前の横断歩道を使用する生徒がいましました。



しかし、信号がないなどの問題から通学での使用は禁止となりました。カスミの前の交差点は車が多く通り、横断歩道が複雑なため、いつ事故が起こってもおかしくありません。

そこでお伺いします。現在横断歩道がないところに新しく横断歩道をつくっていただくことは可能ですか。

**答弁** (経済建設部長) 美浦村役場東交差点については、茨城県竜ヶ崎工事事務所が管理しており、交差点の安全性の向上を図るために交差点の改良工事を計画しており、今年度中に工事を発注し、来年度中に完成を予定している。改良工事が完成した暁には歩行者の道路の横断に關しても、円滑かつ安全なものになると思われる。

少子高齢化問題について



きよはら あやの  
 清原 綾乃  
 議員

**質問** 私は兄弟が3人います

けど両親が共働きで家事がとても大変です。このままだと両親も安心して仕事が行えませんし、兄弟に受験生がいたら迷惑がかかってしまいます。そこでお伺いします。このような家庭のために何か取り組みをしていますか。

**答弁** (教育長) 共働きの家庭の支援として、村内保育所で生後6カ月から就学前までのお子様の保育を行っている。加えて大谷保育所では、保護者が家庭での保育ができない状況に限り、一時保育を行っている。

児童館では留守家庭となる児童を放課後一時的に預かる放課後児童クラブを実施している。

さらにファミリーサポートセンターでは、育児の援助として、有料になりますが、生後6カ月から小学6年生までのお子様をお預かりしている。

**質問** 保育所などで小さな子どもを預かってくれるというご答弁でしたが、保育所に預けたくても、保育料の負担が大きいため大変な家庭もあると思います。そのような家庭への支援はありますか。

**答弁** (教育長) 今年の10月1日から、3歳から5歳及び住民税非課税の世帯の0歳から2歳児の幼稚園、保育所、認定こども園などの利用料を無償化することが決定している。



## 暑い時期の体育施設の開放について



いしかわ ゆうたろう  
石川 優太郎 議員

その対策として、7月から10月の期間中に、6時ぐらいから光と風の丘公園野球場など美浦村の体育施設が使用できるかお尋ねします。

**質問** 暑い時期の体育施設の開放について質問します。

僕は硬式野球のクラブチームに所属していて、休日は9時から4時まで、練習や試合をします。夏季は10時ぐらいに30度を超えるような日もあり、熱中症対策として水分や塩分を定期的に摂取して予防している状況です。

それでも熱中症になる選手もいて、早朝の比較的涼しい時間帯に練習や試合をすることができれば、このような選手が少なくなるのではないかと考えています。

熱中症は時に死に至る恐ろしい症状だと聞いています。

**答弁** (教育次長) 議員ご質問の、夏に午前6時から野球場等の体育施設を利用するためには、総合運動公園であることから、全ての施設を利用可能とする必要があり、人材面・費用面からも実施は困難と考えている。

光と風の丘公園の野球場は午後9時まで利用が可能であり、夕方から夜になれば、日中よりは熱中症に関して安全に練習が行えると考えますので、帰宅時間が夜間になり保護者の方のご心配やご苦労もあるとは思いますが、夕方からの野球場の使用も検討いた

だきたい。

## 危険な「ミニゴミ」



くろだ とうが  
黒田 斗雅 議員

これはごみのごみを呼んでしまつとということであり、道路沿いの除草、ごみ拾いといった地道な環境活動がごみのポイ捨ての抑止につながると考えている。

**質問** ごみについてお尋ねします。

最近道を歩いているとごみが落ちています。ごみを収集したりしているのですが、また来たりするとごみが落ちています。ビンの破片やビールの空き缶などが落ちていてとても危険だと思えます。

どうすればビンや空き缶などの危険なごみが落ちなくなりませんか。

また、ごみ拾いなどの活動に参加することにより、環境美化への意識の向上にもつながると考えており、村でお願いしている清掃活動の参加を積極的に呼びかけていく。

**質問** これからどのようなごみ対策をしていきますか。

**答弁** (経済建設部長) パトロールにより不法投棄の早期発見、解決を目指していく。

また、ポイ捨ては個人のマナーによるところが大きいことから、広報や看板等で適正なごみ処理について啓発を行っていく。

**答弁** (経済建設部長) ポイ捨てが多い場所として、雑草が繁茂して荒れているなど、管理が行き届いてない土地と

ひとつが挙げられる。

高齢者ドライバーについて



とみた あい  
 富田 藍  
 議員

**質問** 最近、高齢者ドライバーによる事故のニュースが毎週のように伝えられているのをよく見かけます。

警察庁の「平成29年における交通事故の特徴等について」から抜粋すると、免許人口当たりの死亡事故件数は減少傾向にあります。高齢者ドライバーによる死亡事故件数と全体に占める割合は増加の傾向にあります。

このような事故の原因は体力や筋力、動体視力や判断力の低下による操作不適により事故が最も多くなっています。しかし、今後も高齢者ドライバーの数は増えていくことが

予想されており、高齢者の事故も増えることが懸念されているそうです。なので私は免許をそういった事故になる前に自主返納する必要があると思います。

私の祖母にも免許の返納についてそろそろするべきではないかと聞いてみたところ、まだ私は大丈夫だからとっていました。

美浦村では、そういった人たちへの呼びかけや対策などは行っているのでしょうか。

**答弁** (経済建設部長)

村で

は、高齢者の交通事故防止を目的としたキャンペーンや広報などの啓発を行うとともに、関係機関と協力し、シルバードライバーセミナーを開催して、教習コースを使った実車講習や危険予測トレーニング等を行っている。

電光掲示板について



くわの りょう  
 桑野 涼  
 議員

**質問** 現在、競走馬の情報や交通安全を促す注意喚起などを流しているらっしゃると思うんですが、このようなこと以外にも使い方の工夫はできないでしょうか。例えば美浦村

内の中小企業のPR映像や、近隣小中学校の行事や試合、後は生徒及び児童が制作した作品や展示物を大画面で紹介するなどの考えがあります。

より村民の皆さんに寄り添った使い方ができるといいと思うのですが、いかがでしょうか。ご検討をお願いいたします。

**答弁** (村長)

みほビジョン

は、去年の10月後半に、JRAの環境整備費を使って役場東側に県の敷地をお借りして建設した。

現在公共的なものや競馬に関係するものに限り流れているが、中学校前の高成績をおさめた方の横断幕も、生徒の皆さん等の許可を貰えれば、みほビジョンに顔写真も載せて掲載したいので調整させていただきます。

ただ、企業のPRについてはクリアしなければならぬ課題も多く、検討課題とさせていただきます。

あの規模の大型映像端末は県内では美浦だけではないかと思うので、美浦村の特色として活性化につなげていきたいと考えています。

ぜひ皆さんからもいろんなアイデアをいただきながら、取り組みたい。



デマンド乗合タクシー



おおくま まなか  
大熊 真佳  
議員

**質問** デマンド乗合タクシーについて質問します。

経営が厳しい路線バスの撤退に伴い、公共交通空白地域が発生することになり、その地域では、公共交通の確保が大きな課題となります。

美浦村の場合は、デマンド型乗り合いタクシーを導入していますが、今後交通弱者となる高齢者の増加が見込まれる中で、公共交通が果たす役割はますます重要になってくるものと思われれます。

そこで、美浦村におけるデマンド型乗り合いタクシーの利用人数、行き先などの利用状況についてお伺いします。

**答弁** (保健福祉部長) デマ

ンド型乗り合いタクシーは、運行を開始して今年で12年目となり、平成30年度末の登録者数は740人で、そのうち60歳以上の方が85%を占めている。

利用者は、1日当たり平均で延べ28・6人、年度全体で延べ6,901人の方に利用いただき、年代別では80歳代の方が最も多く、続いて70歳代となっている。

行き先で最も多かったものが村内病院で延べ1,360人。続いて東京医科大学茨城医療センターが延べ1,129人と、多くの方が病院への受診に利用している。次に、村内スーパーが延べ634人、金融機関が延べ199人、公共機関が延べ196人、その他が延べ138人となっている。

子育て支援センター



たかはし ひかる  
高橋 輝瑠  
議員

**質問** 子育て支援について伺います。地域交流館みほふれ

愛プラザ内に子育て支援センターができましたが、そこで子育て支援が行われていることを子育て中の人にどれくらい周知されていますか。

その周知方法と利用実績をお尋ねします。

子育て広場カレンダー、子育てに関する相談をしたいと  
きの案内、ファミリーサポー  
トセンターの案内などを掲載  
している。

子育て支援センターの利用実績ですが、平成29年4月から平成31年3月までの利用者数については、利用児童数14,593人。保護者数12,899人。わんぱくルーム利用者数3,484人の合計30,976人となっている。なお、利用者を村内に在住の方に限っていないので、近隣の市や町の多くの方に利用していただいている。

子育て世代の方には十分に認識していただいていると思  
うが、今後も本村の子育て支  
援の充実のために、引き続き  
周知を続けていく。